

あきたの 語り部 かちど

VOL. 489
2016.3.25

「川沿いに咲く」

場所は潟上市飯田川の水路沿いです。「水路」なのですが、皆さん「川」と呼んで親しんでいます。日当たりがいいので、付近で一番先に菜の花が咲く場所です。

写真提供：鈴木 公英
(新城川土地改良区)



イメージキャラクター
みどりちゃん

CONTENT 1 第58回本会通常総会を開催

CONTENT 2 2015語り部交流会inあきた

本会第58回通常総会

3月22日、本会第58回通常総会が秋田県社会福祉会館で開催され、会員111名(内委任状55名)が出席したほか、来賓として堀井啓一秋田県副知事、豊田育郎東北農政局長、秋田県議会近藤健一郎副議長、石井浩郎参議院議員等のご臨席を賜った。



まず、本会高員会長が挨拶を行い、「国や県は、現在、農業に関する各種施策を展開しておられるが、我々はこうした施策を積極的に活用し、持続可能な強い農業経営に向けた農業インフラの整備を推進していかなければならない」と述べた。また、国の農業農村整備予算について、27年度補正と28年度当初案を加えた額が27年度当初と比べ1222億円増額されたことに関し、皆様のご協力のおかげであるとして感謝の言葉を述べ、引き続き予算の増額に向け努力して参りたいと述べた。引き続き行われた功労者表彰では、優良5団体、17個人の表彰が行われた。堀井副知事からは、「秋田県の産業や中山間地域が良くなっていくには、農業・林業を維持していくことが大切。担い手の確保・育成については新規就農者が200人を越え、100haを越えるメガ団地も県内で見られるようになった。それには、ほ場整備という契機があってこそ。今後も県内のニーズに合わせて益々ほ場整備を拡充していくために、予算確保に尽力していきたい」とのご祝辞を頂いた。議事では、牧野秀孝理事長(三種町浜口土地改良区)を議長に選任し、平成26年度事業報告・一般会計収支決算及び財産目録について、平成27年度一般会計収支補正予算(理事会専決処分)について、平成28年度事業計画・一般会計収支予算等が審議され、議案はすべて原案通り議決された。



- また、平成28年度事業計画については、
- (1) 農業の体質強化に向けた強い生産基盤づくり
 - (2) 土地改良区支援の充実
 - (3) 水土里情報システム利活用の推進
 - (4) 小水力発電への取り組み
 - (5) 安全・安心な農村環境づくりへの支援
 - (6) 活力に満ちた地域活動への支援
 - (7) 技術士事務所の活用強化

以上を重点項目と位置づけて行っていくことを決定した。

最後に、「決議文(案)」が清野専務理事により朗読され、満場一致で採択された。



目次

CONTENTS

本会第58回通常総会	
2015語り部交流会inあきた	
「秋田の活力2016」フォーラム開催	
平成27年度秋田県農地中間管理事業の実施状況	
OB会定例会	
ちよっと耳より知恵袋「今年度の相談まとめ」	
来てくれ！大館市	

2	ようこそ改良区へ(にかほ市土地改良区：戸蔭静男)	10
4	会員だより、連合会だより	10
5	随想(秋田県能代地区土地改良区：赤塚祐佳)	11
6	土地改良区合併のお知らせ	11
7	水土里レポーターからの写真投稿(大館市南土地改良区：佐々木拓也)	12
8	第16回写真コンクール入賞者発表	12
9	リレー感想文、編集後記	12

決 議

記

- 安定的・計画的な事業執行のため、平成29年度当初予算において現場の要望に応えられる規模の農業農村整備予算を確保すること。
- TPP対策として、既存の農林水産予算の枠組みに影響を与えないよう、政府全体で責任を持ち、毎年度必要な予算措置を講ずること。
- 農業の構造改革を加速化するため、水田の大区画化や汎用化などの対策を着実に推進すること。中山間地域においては、地域特性を踏まえた基盤整備により、農業経営の持続的発展が可能となるよう配慮すること。
- 農村地域の強靱化に資するよう、ため池などの農業水利施設の長寿命化、耐震化、並びに地域の防災・減災対策を国が責任をもって推進すること。
- 多面的機能支払交付金制度の推進にあたっては、支援協議会、水土里ネットの技術、経験を生かせるような体制を構築すると共に、十分な予算措置を講ずること。
- 農地、農業用水などの地域資源を守る水土里ネットの運営基盤の強化・管理体制の充実に向けた取り組みを支援すること。
- 農地中間管理事業の推進にあたっては、水土里ネットの有する技術・経験や地図情報システムを活用すると共に、ほ場整備事業との連携を図るなど、制度の円滑な実施に努めること。
- 小水力発電など、農業・農村における再生可能エネルギーの普及・促進に向けた支援を行うこと。

平成28年3月22日

秋田県土地改良事業団体連合会 第58回通常総会
(水土里ネット秋田)

団体表彰

【金章】 琴丘土地改良区、大仙市大曲土地改良区

【銀章】 能代市榊土地改良区、飯田川土地改良区

【銅章】 仙北市田沢湖若松堰土地改良区

個人表彰

佐々木松男、高橋豊彦、大塚金弘、伊藤錚悦、長坂一二、
加藤光儀、小松忠彦、田仲忠雄、佐藤辰雄、岩田榮徳、
佐々木正子、石山雄康、佐藤高義、小西一三、奥山惣一、
瀬川等、高橋和美
(敬称略)



第57回全国土地改良功労者表彰の決定について

3月25日、東京都のシェーンバッハ・サポー(砂防会館別館)にて全国水土里ネット表彰式(第57回全国土地改良功労者表彰)が行われました。なお、今年度の本県関係の受賞者は次の通り。

団体表彰

◇金章 能代南土地改良区

◇銀章 仙北市西木土地改良区、おものがわ土地改良区

◇銅章 秋田市上新城土地改良区

個人表彰

◇役員 近田 榮一(湯沢市中央土地改良区理事長)

◇職員 千田 博(大潟土地改良区事務局長)

2015語り部交流会inあきた

農業農村の『水のつながり』は『人のつながり』



1月28日、横手市平鹿生涯学習センターで職員会平鹿支部主催の「2015語り部交流会inあきた」が開催され、約300名が参加されました。

この会は、森から里に至るまでの「水のつながり」を、先人から次世代へ、また、現在の多数の人々の「人と人のつながり」で守っていくことの大切さを広めるために行われています。今回は、平鹿地域に現在あるダムやため池、頭首工などの基幹的農業水利施設を取り上げ、こうした施設は水不足の苦難を克服するために作り出されてきたという歴史を有するものであり、また施設と用水を守り継いできた人々の足跡をお伝えする事としました。

はじめに主催者代表として、秋田県土地改良事業団体連合会平鹿支部の柴田康二郎支部長が「横手の地でこのようなイベントを開催できて喜ばしい。毎年、語り部交流会を通じて菅江真澄のことをいきいきと伝えてくれる菅原先生にも感謝」と、自身の故郷での交流会の開催を歓迎しました。基調講演では「水で結ばれた水系社会～山城堰に学ぶ～」と題して、あきた森づくりサポートセンターの菅原徳蔵所長が、次に山城水系土地改良区太田剛史氏を含む3名の方が事例発表を行いました。後に開催された「パネルディスカッション」では、平元美紗緒さんをコーディネーターに迎え、オブザーバーとして参加された県農林水産部の瀧川拓哉参事も、「農家数の減少、非農家の割合増大、農地集積の進展といった変化に対応して適切に農業水利を保全・継承していく必要がある」として、「人のつながり」に着目した施策などについてもお話しされました。

最後に、秋田県平鹿地域振興局農林部長沢淳良部長が「農業農村における『水のつながり』やそれを通して『人のつながり』を地域創生の源の一つと位置づけ、今後の農村振興や地域生活の活性化に結びつけていきたい」と会を閉じ、今後益々の水系の発展を願いました。



(「山城堰」については、487号の「ようこそ土地改良区へ」で特集されています。また、3月末発行の「大地の恵みvol.17」では「2015語り部交流会inあきた」について詳しく掲載しています)

事例発表の一例

「山城堰と堰根祭」

山城水系土地改良区 太田剛史氏

山城堰で行われてきた雄物川周辺住民による取水行為「草止め」は、水路の老朽化などの理由から昭和27年に県営かんがい排水事業としてコンクリート製の頭首工及び幹線用水路の改修工事に着手し、姿を消しました。しかし、「水のありがたさを後世に伝えよう」という思いから、毎年春に『堰根祭』を開催し、川の恵みであるクギザッコ(ウグイ)を関係者全員でありがたく頂いています。土地改良区の仕事も、今回のテーマである「人」と「水」を繋ぐ役割。今後もこの地で、人と水を繋ぎながら共に歩んでいきたいです。





「秋田の活力2016」を開催



2月20日、メトロポリタン秋田で「高質な田舎づくりに向けた実践フォーラム秋田の活力2016」が開催され、150名の方が参加しました。

基調講演では、「農と消費者の橋渡し」と題してNPO法人東北開墾の高橋博之代表理事から、「食べる人が作った農家の顔を思い浮かべることができるような食の提供が必要」と熱く語っていただきました。『食べる通信』ではSNSコミュニティを発達させ、生産者と消費者がより近い存在として感じられるように交流できる仕組み作りを行っています。

次に行われたパネルディスカッションでは、シェアビレッジ町村の武田昌大氏が2015年から始めている仮想村での村民の生活についてお話して下さいました。

一軒の古民家を「村」に見立て、その村を維持するための経費として「年貢」を徴収します。年貢を払った人は「村民」となり、宿泊や農作業体験で「村」を訪れる事が出来ます。また、釈迦内SP実行委員会の日景賢悟さんからは、小学校を核としたキャリア教育を実践しながら「ひまわり」で地域ブランド作りを行っていることをお聞きました。次に神代活性化協議会の浅野慎太郎氏が「6次産業体験で地域の担い手を育成する事業」として、地域の担い手である子供達に、実際に6次産業のスキルを学ばせ、1次2次産業を実体験することを通して地域を好きになり、愛着が持てるような教育事業を紹介しました。最後に、水土里ネット秋田が事務局を努める「水土里の野菜倶楽部」の発表。Akitaふるさと活力人養成セミナーの1期生でもある嵯峨秀樹さんが発表しました。仁井田地区の伝統野菜の復活を軸に、それに係わる学校や地域との連携を通して、人材育成ネットワークの拡大を図ります。今までに行ってきた大住小学校の児童・生徒との農業体験の実績や、地域の人たちと共に作り、収穫した仁井田大根を漬物にした話しなど、今年度の集大成を発表しました。



個人の発表の後は、国際教養大学の熊谷教授をコーディネーターに迎え、パネリストの方々と会場を繋ぎました。会場からは「移住してきてビジネスを始めるところなのですが、地域の人たちとどのように係わればいいですか」との質問が出て、「地域の行事には必ず顔を出す。また、距離を縮めるためにどこかに行ったときにはお土産を買ってきて配る」といった答えや「お酒を何度も飲み、『実は…』と話してくれるまでの仲になる」といった答えを頂き、会場の方も納得の表情を浮かべていました。新しい「秋田の活力」が大きな渦となって農山村地域を盛り上げていってくれたらと思います。

平成27年度 秋田県農地中間管理事業の実施状況

(H28.2.26) 秋田県農業公社農地管理部

1 農用地等借受希望者の応募状況について

(1)借受を希望する経営体数及び面積

・1月末現在の状況としては、2,451経営体から13,573haの借受希望があった。

公募回数	借受希望経営体数				借受希望面積(ha)	
	うち法人	市町村外	新規参入		うち法人	
第1回(H27.7月分)	1,497	1,235	75	13	8,482	3,809
第2回(8月分)	281	40	19	0	1,391	520
第3回(9月分)	123	13	10	2	718	380
第4回(10月分)	144	14	21	1	799	279
第5回(11月分)	134	15	8	1	450	165
第6回(12月分)	111	14	11	3	472	198
第7回(H28.1月分)	161	28	21	2	1,261	782
計	2,451	359	165	22	13,573	6,133
(26年度実績)	2,603	340	142	15	15,070	6,612

(2) 1経営体当たりの借受希望面積の分布

・借受希望面積が5ha以下の経営体が2,035経営体と全体の8割以上を占める一方、50ha以上の経営体は29経営体と、規模拡大や集約化により経営を強化する動きも見られる。

借受希望面積(ha)	0~1	1~2	2~5	5~10	10~50	50~200	計
経営体数 (%)	525 (21.4)	722 (29.5)	788 (32.1)	243 (9.9)	144 (5.9)	29 (1.2)	2,451 (100)
第1回	301	412	516	162	87	19	1,497
第2回	63	87	83	33	13	2	281
第3回	32	34	35	11	9	2	123
第4回	34	43	44	11	10	2	144
第5回	32	58	33	7	3	1	134
第6回	27	41	30	10	2	1	111
第7回	36	47	47	9	20	2	161

【参考】借受希望者の公募

☆公募期間：平成27年7月1日から平成28年1月31日までの7ヶ月間とし、公募結果を月末毎に取りまとめ、農業公社のホームページで公表。

☆公募区域：県内25市町村を214区域(空白域なし)に分けて公募。

区域設定	市町村全域	旧市町村	大字・字	備考
市町村数	4	5	16	
(26年度)	2	6	17	公募区域数:343

2 貸付希望者及び面積の状況について

出し手農家からの貸付希望については、市町村(農業委員会)等の窓口で随時受付を行っており、1月末現在の状況は25市町村の4,079経営体から4,006haの申込みがあった。

時期	貸付希望者	貸付希望面積(ha)	備考
H27.7月末分	1,322	1,309	
8月末分	223	226	
9月末分	437	424	
10月末分	540	504	
11月末分	756	751	
12月末分	538	532	
H28.1月末分	263	260	
計	4,079	4,006	25市町村
(26年度実績)	2,231	2,268	24市町村

3 農用地等の借受・貸付状況について

(1)借受状況について

・ 1月末現在の状況は、2,909経営体から2,921haを借受けした。

26年度実績：1,736経営体から1,730haを借受

貸付時期	貸付経営体数	貸付面積(ha)	平均貸付面積(ha)
H27. 5. 1分	351(61)	732(346)	2.1(5.7)
H27. 8.21分	1(1)	1(1)	1.0(1.0)
H27.11.27分	29(12)	93(59)	3.2(4.9)
H27.12.22分	70(25)	298(225)	4.2(9.0)
H28. 1.29分	258(59)	903(635)	3.5(10.8)
H28. 2.26分	504(108)	1,575(1,025)	3.1(9.5)
計	1,213(266)	3,602(2,291)	3.0(8.6)
(26年度実績)	520(97)	1,049(491)	2.0(5.1)

※()は法人分

4 農地中間管理事業の推進状況について

(1)出し手農家への周知活動の強化

- ①高齢者にも視覚的にわかりやすく解説する「PR映像」を制作。
- ②新聞広告や市町村・J A・土地改良連合会の広報に掲載。新年にはTVCMで事業PR。
- ③出し手農家等を対象とした現地説明会の開催。
- ④県種苗交換会や市町村産業祭にブースを設置しPR活動を展開。

(2)現地における推進体制の充実・強化

- ①現地相談員の配置
地域における話し合いや出し手農家の掘起こし活動を活発化させるため、地域の農業事情に精通している現地相談員を配置。
- ②県農地中間管理事業推進チームとの連携を強化
現地コーディネーターの役割を担う県農地中間管理事業推進チームと市町村・J A・土地改良区等関係機関が連携を密にして、農地集積のモデル事例を作り上げ、県内への横展開を促進。

土地連OB会定例会が開催される やあ、久しぶり！



▲OB会后藤会長

2月26日、平成28年度土地連OB会定例会が秋田市「イヤタカ」で開催された。会員数83名のうち実出席が34名(委任状31名)であった。

最初に、後藤至会長より、久々の再会で感慨無量である。健康長寿を堪能して頂きたいと挨拶があった。続いて、水土里ネット秋田の高貝久遠会長より、土地改良予算は十分な回復を果たせず、「闘う土地改良」のスローガンを掲げ、全土連の二階会長を筆頭に国政

に予算回復を働きかけ、本年度は増額を果たしたものの、まだまだ平成21年度のレベルには達しておらず、今後とも国政への働きかけが必要であると来賓挨拶を賜った。

議案審議では、平成27年度事業報告及び収支決算の承認、平成28年度事業計画(案)及び平成28年度収支予算(案)等について審議され、何れも、原案どおり可決された。

恒例となった懇親会では、一年に一度の再会を楽しみにしており、涙ぐむ会員の姿も見受けられた。次回も元気で出席して頂きたい。また会う日まで！



▲水土里ネット秋田高貝会長の来賓挨拶

今年度の「ちょっと耳より知恵袋」では、相続に関するを中心に説明をさせていただきました。若干でも皆様のお役に立つことができましたでしょうか。

さて、今回は、今年度最後の「あきたのとちかいりょう」発行ということですので、今年度、会員が相談依頼カードを提出し、それに基づき本会が受け付けた相談について、過去の相談実績と比較しながら、その傾向を探ってみようと思います。

【分野毎相談数】

年度	組合員資格	土地改良区 の地区	賦課徴収	滞納処分	会計	事業手続き	施設管理	附帯事業	多面的機能 支払い等	その他	合計
H23			4	3		1				1	9
H24	1	1	1			3	2		1		9
H25			3			3	1				7
H26		1	7	2	2		2	1			15
H27		3	4			3	2				12
合計	1	5	24	12	3	10	7	4	1	2	69

相談分野について

当会に寄せられる相談の中心は、「賦課徴収」に関するもので、今年もその傾向は変わっておらず、4件の相談が寄せられております。

例年は、「常習滞納者から賦課金を徴収する方法」に関する問い合わせがほとんどなのですが、今年は「過誤納金の返還」や「新規編入地区の組合員から徴収する加入金」に関する問い合わせもありました。

他方、件数は少ないものの、毎年の様に相談が寄せられる事項は、「土地改良区の地区」、「事業手続き」、「施設管理」に関するものです。

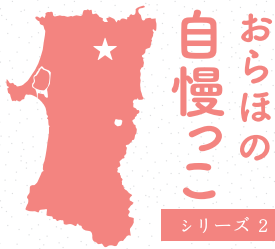
特に、昨年から目立っておりますのが、「土地改良区の地区」に関する相談のうち、「耕作放棄している組合員から地区除外の申出を受けた場合の対応」で、昨年度の相談件数と合算して3件に上ります。

また、「賦課徴収」と「事業手続き」に関する本年度の合計件数7件の内、「亡組合員の相続人が相続を放棄し、相続人が不明となった場合の対応」が3件に及びます。来年度からの国の新しい事業で、財産管理人制度の普及に向けた取り組みが始まるようですが、現実には財産管理人制度を活用するには通常、裁判所に多額の費用を納付する必要があると、会員側としてはなんとか財産管理人制度を用いずに解決する方法がないか手探りしているのが現状です。国は財産管理人制度の普及を図ろうとしておりますが、費用負担の問題を解決しない限りなかなか難しいのではないかと危惧しているところです。

なお、県内の土地改良区数からすれば、相談数が少ないのではないかと感じています。相談窓口として県当局もあり、土地改良区の運営に関する相談については、ほとんど県当局にご相談されていることでもあります。今まで相談の実績がなかった土地改良区から相談が寄せられた後、それ程時間が経たずに再度別件の相談が寄せられることも良くあり、相談制度が会員にとって敷居が高かったのかなあ？と考えさせられることもあります。

本会は、土地改良区の指導・監督機関ではありませんので、相談への対応に限界があることも事実ですが、できるだけ土地改良区の立場に立って相談に応じたいと思っておりますので、何かお困り毎がございましたらお気軽にご相談下さい。

※なお、このコーナーで、「こうした問題を取り上げて欲しい」とのご要望がございましたら、総務企画部担当者までご連絡下さい。お待ちしております。



おらほの
自慢っこ

シリーズ 2

来てけれ! 大館市

大館市産業部
農林課農林整備係
齋藤 大希

きりたんぽまつり



本場大館きりたんぽまつりは、毎年秋に行われる来場者 10 万人を超える秋田県を代表する食のイベントです。今年度も「うまし うつくし おもてなし」をコンセプトに、本場である大館きりたんぽをはじめとした様々なグルメが軒を連ねました。

陽気な母さんの店



陽気な母さんの店は大館市曲田地区にある農産物直売店です。地区近隣で生産された中山梨や曲田りんごをはじめとした様々な作物が販売されています。りんごのもぎ取りやきりたんぽづくりなどの体験学習を行うこともできます。

上川沿圃場整備



大館市上川沿地区は米代川沿いに位置する地区であり、水源の豊かな本地区は平成 28 年度よりさらに良い作物を生産するため、227.1ha にわたる面積において圃場整備事業による面工事を予定しております。

比内地鶏



比内地鶏は日本三大美味鶏のひとつに数えられています。適度な歯ごたえとダシ汁の美味さは比内地鶏の最大の特徴で、本場大館きりたんぽ鍋には欠かせない食材として広く知られています。

大館さくら豚

新名物



アメリカ原産のデュロック種の紅毛の豚であり、やわらかく臭みが少ないことが特徴の、とてもジューシーな大館市のニューフェイスです。

枝豆

新名物



大館市では枝豆を重点戦略作物に位置づけ、作付面積を平成 27 年度からの 5 年間で 104ha から 230ha まで増加させる計画を策定しています。生産販売加工をすべて行う 6 次産業化の推進や、枝豆スイーツコンテストを実施するなど、大館市の名物の中で頭角を現しています。(写真はコンテスト優勝の枝豆さっぱりパンナコッタ)



温水路

にかほ市土地改良区
戸 蒔 静 男

我が水土里ネットにかほは、平成19年4月1日に3土地改良区（仁賀保・金浦・象潟）の合併により、にかほ市土地改良区（現在の面積2,593ha、組合員1,948人）として新設合併しております。

当改良区では、鳥海山を源とする白雪川、岩股川、鳥越川、奈曽川、赤石川より鳥海山の恵みによる用水を供給しており、仁賀保（岱山温水路L=7,190m）金浦（金浦温水路L=1,306m）上郷温水路群（小滝・象潟・長岡・水岡・大森温水路の5路線L=6,281m）の7カ所の温水路を管理しております。長岡温水路は、日本最初の温水路として昭和2年に完成し、その後上郷温水路群が改修を含め昭和35年までの歳月をかけて工事をしており、上郷温水路群が平成15年に土木学会選奨土木遺産に認定、平成17年に疏水百選認定、平成21年には県有形文化財に指定されております。続いて、仁賀保（岱山温水路）が昭和34年より、金浦（金浦温水路）が昭和50年より整備され温水路の供給面積は計1,713haに及び、改良区の66%の農地を潤しております。また、上郷・横岡地区では昭和47年～50年にかけて県上郷地区・団体営横岡地区においてパイプラインによる給水（497ha）をしており、その他は、通常の用水、排水路の維持管理を行っております。

また、金浦温水路では、平成26年度より小水力発電（畑野地区）を県並びに関係団体の協力のもと県営事業として行っており、今年5月中旬以降の売電に向けて進めております。農地を潤す温水路を地域資源として保全管理しながら、地域農業のため次世代に受継いでもらえるようがんばっていきたくと思います。



▲小滝温水路



▲旧長岡温水路（日本で最初の温水路）



▲現在の長岡温水路

会員だより

新理事長就任のお知らせ

次の方が新たに理事長に就任されました。

○仙北市黒倉堰土地改良区（H28.2.12）

理事長 佐藤 乃三

○秋田市上北手小山田土地改良区（H28.2.20）

理事長 佐藤 宏悦

事務所移転のお知らせ

○戸村土地改良区

〒018-1603 南秋田郡八郎潟町小池字中嶋142番地

電話・FAXは従来通り

（新事務所での業務は、4月1日からとなります）

連 合 会 日 誌

2月24日	平成27年度交換分合推進対策研修	秋田市
2月29日	平成28年度秋田県管理門滑化事業推進委員会幹事会	本会会議室
3月1日	平成27年度水土総合強化推進事業技術実践研修（技術力向上事業）	秋田市
3月7日	秋田県土地改良区統合整備推進協議会	本会会議室
3月7日	秋田県21世紀土地改良区創造運動推進本部員会議	本会会議室
3月8日	平成27年度秋田県換地等強化事業推進委員会幹事会（第2回）	本会会議室
3月18日	平成27年度秋田県耕作放棄地対策協議会通常総会（第2回）	本会会議室
3月23日	秋田県農業水利施設活用小水力等発電推進協議会総会	本会会議室

研修から学ぶこと

秋田県能代地区土地改良区 総務課庶務係主事

赤塚 祐佳



研修に参加することで、他土地改良区や関係者の方と意見を交わすことの重要性をあらためて実感しました。

特に印象に残っている研修は、一昨年参加させて頂いた秋田県土地改良事業団体連合会主催のワークショップです。水土里ネットの今後と広報について考え、お互いに意見を出し合い、各土地改良区が抱える課題について話し合いました。他土地改良区の現状や意見を伺い、そのような考えもあるのかと考えさせられることが多くあり、大変勉強になりました。中でも土地改良区のことを知ってもらうため、それぞれの土地改良区が提出した写真について講師の方がお話しされた、日常業務を撮影した写真を広報に載せることで土地改良区の苦勞が伝わるのではないかという話には共感出来ました。今まで経験したことのない研修であり、翌年

の広報作成に活かすことが出来たのではないかと思えます。

本土地改良区は平成二十八年四月一日に近隣三土地改良区との合併を控えております。今後、引継ぎなど多くの業務が予想されますが、合併の一番の目的は組合員の負担軽減にあると考えておりますので、少しでも組合員の方々の力になれるよう、研修で学んだことを活かし、日々精進して参りたいと思えます。



▲ワークショップの様子



▲合併準備事務所を開設



▲漏水箇所復旧工事の様子

土地改良区合併のお知らせ

合併により設立された土地改良区：「北秋田市土地改良区」

認可日：平成28年1月20日

合併により解散した土地改良区：北秋田市鷹巣、合川町、森吉町、北秋田市綴子

理事長：成田光弘

新住所：北秋田市栄字太田9番地2

関係面積：3,399ha

組合員数：3,972人

電話・FAX番号：3月末まで各土地改良区で業務にあたるため、4月以降にお伝えします



合併後存続する土地改良区：「秋田県仙北平野土地改良区」

認可日：平成28年2月2日

合併により解散した土地改良区：秋田県七滝、秋田県仙北南部、秋田県仙北平野東部、大仙市横堀、仙北平野豊川、大仙市中仙南、大仙市清水北部、大仙市鶯野、仙北郡六郷町

理事長：伊藤 稔

関係面積：9,599ha

組合員数：5,818人

住所・電話・FAX：秋田県仙北平野土地改良区 現住所並びに現番号

合併認可予定（平成28年4月1日）

■合併後存続する土地改良区：「秋田県能代地区土地改良区」

合併により解散する土地改良区：能代北部、東雲原、能代市榊

■合併後存続する土地改良区：「秋田県雄物川筋土地改良区」

合併により解散する土地改良区：十文字町、平鹿町、おものがわ、横手市沼館、阿気、横手市宮田

第16回 美しく豊かな農村づくり写真コンクール

2月3日、「第16回美しく豊かな農村づくり写真コンクール」の審査委員会が水土里ネット秋田で行われました。日本の農業生産、農村の生活、文化、環境など幅広くとらえた農業農村風景の写真を募集し、県内外から集まった作品の中から、入賞作品16点が選ばれました。

ベスト あきた賞 「体験学習」九嶋祐(北秋田市)、 **あきたに来てけれ賞** 「棚田に咲く」高橋康雄(山形県)、 **ナイスアグリカルチャー賞** 「田んぼに出勤」大場建夫(にかほ市)、「今年は豊作だよ」奈良茂雄(男鹿市)、「行くぞー」吉田慶嗣(大仙市)、「働く農夫」五十嵐清光(横手市)、 **棚田オーナー賞** 「共同作業」鈴木武男(横手市)、「これは木ですか？」井波栄子(潟上市)、「花摘みの日」原田司(秋田市)、「イナゴ追う」石郷岡富男(秋田市)、「いざ出陣」佐藤義敏(由利本荘市)、「ナイスキャッチ？」中村章(横手市)、「あーっ、あぶない」渡邊五郎(北秋田市)、「山里に春が来たりて…」岡田竜史(仙北市)、「つり橋でジャンプ」松橋加代子(仙北市)、「代掻きと八重桜」渡部純子(八郎潟町)



ベスト あきた賞

「体験学習」 九嶋 祐さん(撮影：大館市)



秋田に来てけれ賞

「棚田に咲く」 高橋 康雄(撮影：山形県大蔵村)

リレー vol.4 感想文



毎号、様々な内容で知れる事が沢山あり、とても勉強になっています。次号も届くのが楽しみです。
井川町土地改良区：小林千子より



水土里レポーターによる写真投稿 vol.4

昨夏のリトルモンスター

水土里レポーター：大館市南土地改良区 佐々木 拓也



昨夏、我が家のアスパラ畑で発見したセミの抜け殻。収穫の手を休め、しばし見入ったその姿はまさに「リトルモンスター」我が家のアスパラ畑の栄養が、幼少期の彼を育てたかと思うとわが子のようにも思え…

春はもうすぐそこ。畑の土深くから今年は何匹のリトルモンスターが現れることやら。

編集後記

屋根の雪下ろしの無いシーズンは、久しぶりです。腰や筋肉痛は、免れたものの、年甲斐もなく、なぜか今「50肩」と仲良くしています。徒歩通勤・朝礼時には、左肩をぐるぐる回す光景が、当分続きそうです。何事もスムーズに回ってほしいとの思いが、最近とみに強くなってきました。本日、総務企画部朝礼時のスピーチが当番でした。恒例の「謎かけ」をひとつ。「松尾芭蕉」とかけて、「痴呆性老人」ととく、その心は「どちらもハイカイ」です。

(事業調整センター◆松橋)

